

平成28年度行政評価シート【個表】

平成 28 年 6 月 30 日

評価対象事業	評価者	文化財課 担当課長	西山 朗
文財－01 財産管理事務	☒ 自治事務 ☐ 法定受託事務	主管課	文化財課
		関連課	
総合計画上の位置付け	分野	行財政運営	施策の方針
			行財政運営

1 事業の目的

対象	市有財産等
意図	財産管理に係る運営事務を行うとともに、土地等の売り払い等による収入を確保、公共公益施設整備基金への積立てを行うため。 安定した財政運営を図るために、財政調整基金に積立てを行うため。
効果	普通財産土地等を良好な状態で維持管理するとともに、売り払い等による収入の確保を図る。 財政の安定的な運営を図る。

2 平成27年度に実施した事業の概要

野村総合研究所跡地の管理を行い、市民向けに一般公開した。

3 事業費等基礎データ

データ区分	26年度決算	27年度決算	データ区分	28年度当初予算	備 考
人 口	177,464人	177,243人	人 口	176,869人	・各年3月31日 (住民基本台帳)
世 帯 数	80,368世帯	80,676世帯	世 帯 数	80,928世帯	
事業の対象者数			事業の対象者数		
決算値(千円)	2,839	3,149	当初予算(千円)	3,340	
国県支出金			国県支出金		
地方債			地方債		
その他	422	632	その他	502	
一般財源	2,417	2,517	一般財源	2,838	
人員配置数	1.0	1.0	人員配置数	1.0	
人件費(千円)	7,654	7,774	人件費(千円)	7,931	
総事業費(千円)	10,493	10,923	総事業費(千円)	11,271	
市民1人当りの経費(円)	59	62	市民1人当りの経費(円)	64	
対象者1人当りの経費(円)			対象者1人当りの経費(円)		

4 評価結果

※「効率性」「妥当性」「有効性」「公平性」「協働」については、プルダウンで選択。

効 率 性	事業費に削減余地はないか	2. ない
	関連・類似事業との統合はできないか	2. 統合に向けた検討は可能
妥 当 性	事業の実施に対する市民ニーズはあるか	3. 変わらずにある
	事業の廃止・休止による市民生活への影響は大きい	2. 廃止・休止による影響は小さいがある
	今後も市が実施すべき事業か	5. 豊かな市民生活に寄与することから、今後も市が実施する必要がある
有 効 性	事業の成果は得られているか	2. 成果は概ね出ているが、更なる努力は必要である
	事業の上位施策に向けた貢献度は大きい	2. 事業の方向性は適切であるが、手法は見直す必要があり、あまり貢献できていない
公 平 性	受益者負担は公正・公平か	△.負担未導入 △-1. 今は受益者負担を求めているが、今後、負担の導入を検討する必要がある
協 働	市民等と協働して事業を展開しているか	○.協働実施済 協働実施済の場合のパートナー 市民ボランティア等
事業内容の方向性	☒ a: 事業内容を見直す ☐ b: 事業内容は現状通りとする ☐ c: 事業を休止又は廃止する ☐ d: 他事業と統合し、本事業は廃止する	見直しの種類 ☐ 拡大 ☐ 縮小 ☒ その他 見直しの内容 野村総合研究所跡地の所管の見直しを行う必要がある。 事業へ統合
予算規模の方向性	☒ A: 予算規模を拡大する ☐ B: 予算規模は現状維持とする ☐ C: 予算規模を縮小する	事業内容・予算規模の方向性設定の理由 暫定利用が続いている野村総研跡地の利用のニーズは高まっており、跡地全体の有効な維持管理及び利活用を進めて行く必要がある。
総評(評価に対する考え方、根拠等)	建物は文化財課以外の課も倉庫的に利用し、また、グラウンドや敷地内などは多くの市民が利用している。建物自体は老朽化が進み、危険度も増大している。このような状況で文化財課が今後も管理していくことは、非常に厳しい状況である。現在保管されている遺物を他の場所へ移し、管理の所管を見直すとともに、跡地の今後の利活用について、改めて全庁的な検討を進める必要がある。	

平成27年度事業実施にあたっての課題 (前年度未解決の事項を含む)	敷地内の竹林・樹木等の維持管理、建物の老朽化に対する対応。 埋蔵物の保管環境の改善。	
課題解決のために行った平成27年度の取組	近隣住民からの枯木除去依頼に対応。敷地内に繁茂した竹林の除去をボランティア等と実施。 建物崩壊箇所への立ち入り禁止措置を実施。	☐ 解決 ☒ 一部解決 ☐ 未解決
未解決の課題、新たな課題とその理由	埋蔵物の保管環境としては劣悪であるため、保管場所の移転の検討が必要である。	

○ 他市比較・ベンチマーク(県内外自治体など他自治体や民間団体との比較値)

比較事項									
団体名	鎌倉市								
他市実績									
比較事項									
団体名	鎌倉市								
他市実績									
比較事項									
団体名	鎌倉市								
他市実績									
当該事業実施に伴う他市比較に関する考え方									

◎ 事業実施に係る指標

指標の内容	敷地の一般開放					単位	日	指標の傾向	⇒	備考
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31			
活用の方向性が定まるまでの暫定的な措置として、市民等への一般開放を進めるため。	目標値	362.0	362.0	362.0	362.0	362.0	362.0			
	実績値	362.0	363.0							
	達成率	100.0%	100.3%							
指標の内容	撮影等への協力					単位	回	指標の傾向	⇒	備考
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31	収入額では予算額以上を確保した。		
暫定的な措置として、現状での利活用を進めるとともに、撮影等協力に伴う収入を確保するため。	目標値	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0			
	実績値	4.0	1.0							
	達成率	80.0%	20.0%							
指標の内容	ボランティアの活用による竹林等の維持管理					単位	回	指標の傾向	↗	備考
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31			
市民協働による敷地の適正な維持管理を進めるため。	目標値	0	5	5	5	5	5			
	実績値	－	11							
	達成率		220.0%							
当該事業実施に伴う指標の推移に関する考え方										

● 事業に関する特記事項

☐ 第3期基本計画前期実施計画重点事業	☐ 19節で予算措置している補助金が含まれる事業
--	---